

# ウイルかわら版 will

平成二十三年六月

第二二号

編集 吉澤 隆  
ウイルさいたまと吉澤企画の皆さん

この数日30度を超える日が続いていますが、その影響で消費電力がすでに予測を大きく上回っているようですね。この夏はいつたいどうなるのでしょうか？久しぶりに被災地に足を運んでみると、埼玉では忘れつつある現実を目にします。節電ですね。（汗）

## レイノルズ博士に学ぶ、山歩きの楽しみ方



↑異常なまでに健脚のレイノルズ博士

広く整備された道もあれば、所によつては狭く、一步一歩足場に気を遣いながら歩くケモノ道のような所もあります。

6月15日に日本を後にした我が師レイノルズ博士でしたが、出国前の5～6月でその山歩きの楽しみ方を伝授いただきました。今年で70歳になる博士は、山歩きの達人なのです。（この三月にアメリカで亡くなられた博士のお母さんは、99歳の最後までお元気だったのですが、やはり健康の秘訣は良く歩くことだったそうです。）

そんな博士の山歩きに連れて行つていただきました。越生から黒山三滝、鎌北湖。山はなかなか奥が深いのです。

一つの山でも、初心者向けのなだらかな道から上級者向けの険しい道まで様々な面を持つていて、体力や天候などに合わせて付き合い方を選ぶことができます。

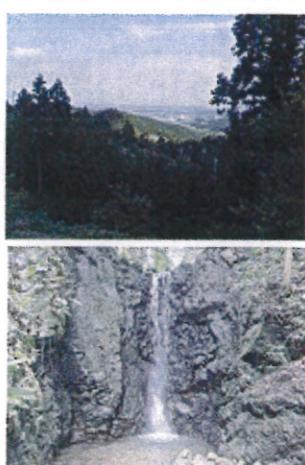
しぶきから発生するマイナスイオンというか……日々の疲れを吸い取ってくれるような、そんな大自然とのふれあい、おすすめですか？もしよかつたら一緒にいかがですか？



これからは熱中症にご用心！日よけ水分補給をこまめにしましょう！



二度目には、欲張つて5時間以上歩いてみたのですが、翌日は筋肉痛で大変でした。体力に合わせて2時間程度の短いコースも選べますからね、安心してください。・・・と思つたら、70歳の博士は翌日もまた5時間ほど山歩きをしたとのこと。人の身体ついていふのは、日々の積み重ねで作られていくんだな」と思いました。きっと長生きしますね、博士。頼もしいです。



will ウィルさいたま

0120-797-739

## 今月の支援活動報告

毎月定番となりましたが、今月の支援活動報告です。

6月17日、一月ぶりに支援物資のお届けに行つて参りました。今回の目的は二つ。先月の呼びかけに応えてくれた皆さんから届いた50着近い喪服を、仙台で支援活動をしている共同通信社の宮川さんのもとにお届けすること。もう一つは、第7便目となつたフィンランドのママたちからの赤ちゃん用ミルクをお届けすることでした。

まずは仙台市内にお住いの宮川さん宅へ喪服のお届けから。宮川さんは都内在住なのですが、お仕事の都合で一時的に仙台市内に居住を構え、休日は支援活動をしていらっしゃいます。皆さんからお預かりした喪服たちは段ボール箱15個分にもなつたのですが、それすべてご自宅でお預かりくださいました。そしてさつそく19日には被災地の避難施設にお届けくださったようです。

いただいた喪服の中には、ご遺族の方から預かって、亡くなつた方に、なんとか命がつながれているような感じがして、感動しました。



TSUNAGARIの勝又さん、NPOラブネイバーズさんが中継してミルクを届けてくれます。

今回もまた、気仙沼から石巻、仙台市にかけて

私たちもは葬儀関係の仕事をしているものですから、まさか赤ちゃん用のミルクを届けたのが葬儀屋さんだなんてことを知つたら不快な思いをするお母さんたちがいるんじゃないかな?と思い、取材を遠慮させていただいたのですが、どうだつたのでしょうか?私の家にはテレビがないものですから、心配です(汗)。



いち早く復旧した石巻のセブンイレブンは、希望の輝きを見せています

さて、次なるイベントは、フィランドのママたちと連携して、7月25日に被災地にサンタさんをお届けするプロジェクトです。また概要がつきりとしたらお伝えしますね!

皆さんからお預かりした喪服たちは大人気で、とても喜んでいただけたようです。



### さいごのときまでしっかり生きるための建設的な生き方を学ぶ会

7月23日(土)13時半~  
(大宮、ウィルいさいたま)  
前回より吉澤が講師を  
やってます!

~お申込みはお電話で~

0120  
797-739



吉澤企画バイク部の皆さん↑



何だから言つて結構真剣にやつてます↓

から声がかかり、10年前の現役時代にコンビを組んでいたメカニックの須藤君と、チームの後輩の徳村君とでミニバイクレース(いわゆる草レースですね)に出演してきました。久々のバイクでしたが、自分は天才だと勘違いして大学を中退して天才だと勘違いして大学を中退して車は車、住宅の廃材は廃材と、廃棄物の仕分けが進んでいます。といつてもようやく国道沿いの瓦礫の撤去が進んだ、というだけで、沿岸部の水と電気の供給はまだまだそうです。

お届けしたのですが、気仙沼から石巻にかけての三陸海岸沿いの道は随分と整備が進んでいるようでした。車は車、住宅の廃材は廃材と、廃棄物の仕分けが進んでいます。といつてもようやく国道沿いの瓦礫の撤去が進んだ、というだけで、沿岸部の水と電気の供給はまだまだそうです。

復興復興と言いますが、延々と海岸線の国道沿いに並ぶ、露出した住宅の基礎コンクリートの列を横目に走りつつ、その地に住んでいた皆さんには、この光景をどんな気持ちで眺めるのだろうかと想像して、気が重くなります。

お届けしたのですが、気仙沼から石巻にかけての三陸海岸沿いの道は随分と整備が進んでいるようでした。車は車、住宅の廃材は廃材と、廃棄物の仕分けが進んでいます。といつてもようやく国道沿いの瓦礫の撤去が進んだ、というだけで、沿岸部の水と電気の供給はまだまだそうです。

車は車、住宅の廃材は廃材と、廃棄物の仕分けが進んでいます。といつてもようやく国道沿いの瓦礫の撤去が進んだ、というだけで、沿岸部の水と電気の供給はまだまだそうです。

車は車、住宅の廃材は廃材と、廃棄物の仕分けが進んでいます。といつてもようやく国道沿いの瓦礫の撤去が進んだ、というだけで、沿岸部の水と電気の供給はまだまだそうです。